

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-129589

(43)Date of publication of application : 21.05.1996

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

G06F 19/00

(21)Application number : 06-304134

(71)Applicant : MATSUYA JIDOSHA KK

(22)Date of filing : 01.11.1994

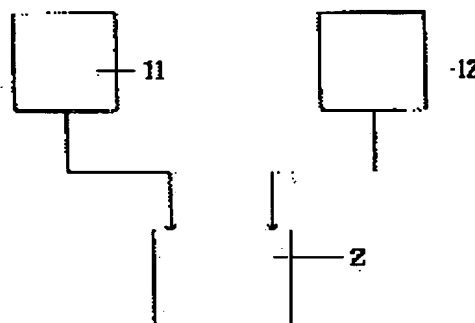
(72)Inventor : MATSUZAWA YASUSHI

(54) INTERMEDIARY DEALING SYSTEM FOR COMMODITY

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a system which efficiently promotes intermediary dealing business by many parties concerned for many commodities.

CONSTITUTION: This system is equipped with a 1st memory 11 which stores data regarding sale applicants and data regarding commodities that the sale applicants try to sell and a 2nd memory 12 which stores data regarding purchase applicants and data regarding commodities that the purchase applicants try to purchase. The system is equipped with a judging mechanism 2 which compares the data regarding the commodities in the 1st memory 11 with the data regarding the commodities in the 2nd memory 12 to judge whether or not they match each other.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 08.05.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 19.10.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-129589

(43)公開日 平成8年(1996)5月21日

(51)Int.Cl.⁸

G 0 6 F 17/60
19/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 15/ 21
15/ 24

D

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平6-304134

(22)出願日 平成6年(1994)11月1日

(71)出願人 594198868

マツヤ自動車株式会社

長野県長野市東和田509番地

(72)発明者 松澤 靖

長野県長野市東和田509番地

(74)代理人 弁理士 赤尾 直人

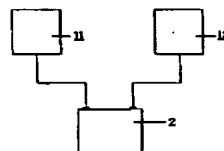
(54)【発明の名称】 商品の仲介売買システム

(57)【要約】

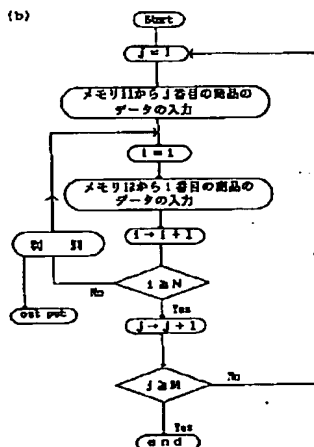
【目的】 多数の当事者及び多数の商品を扱う売買の仲介業務を効率的に推進できるためのシステムを提供すること

【構成】 売却申込者に関するデータ及び該売却申込者が売ろうとしている商品に関するデータを記憶する第1メモリ11と、買受申込者に関するデータ及び買受申込者が買おうとしている商品に関するデータを記憶している第2メモリ12とを備え、第1メモリ11の商品に関するデータと第2メモリ12における商品に関するデータとを対比し、これが一致するか否かの判別機構2を有していることにより、多数の当事者及び多数の商品を扱う売買の仲介業務を効率的に処理することができる商品の仲介売買システム

(a)



(b)



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 売却申込者に関するデータ及び該売却申込者が売ろうとしている商品に関するデータを記憶する第 1 メモリと、買受申込者に関するデータ及び買受申込者が買おうとしている商品に関するデータを記憶している第 2 メモリとを備え、第 1 メモリの商品に関するデータと第 2 メモリにおける商品に関するデータとを対比し、これが一致するか否かの判別機構を有していることに基づく商品の仲介売買システム

【請求項 2】 商品に関するデータが一致した場合、売却申込者及び買受申込者に対し、売買成立の可能性がある旨の信号を、売却申込者及び買受申込者の双方に伝達できる機構を備えたことを特長とする、請求項 1 記載の商品の仲介売買システム

【請求項 3】 売却申込者の売却条件と買受申込者の売却条件とを、それぞれ第 1 メモリ及び第 2 メモリに記憶し、当該条件が一致するか否かを商品のデータに関する判別と同時に判別する判別機構を備えたことを特長とする、請求項 1 記載の商品の仲介売買システム

【請求項 4】 予めブラックリストに掲載されている業者を第 3 メモリに記憶させ、第 1 メモリ及び第 2 メモリの売却申込者及び買受申込者が当該第 3 メモリのブラックリスト業者と対比し、これが一致するか否かの判別機構、及び一致する旨の判別が得られた場合に対応して、第 1 メモリ及び第 2 メモリの売却申込者及び買受申込者のデータをそれぞれ第 1 メモリ及び第 2 メモリから消去する手段を備えたことを特長とする、請求項 1 記載の商品の売買仲介システム

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本願発明は、多数の売却申込者及び買受申込者及び多数の商品を取り扱う売買の仲介を、効率よく処理できるためのシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来不動産などの売買の仲介は行なわれているが、これは単に各契約書に仲介人が立ち会って、売買当事者双方に連絡をし合いながら契約を成立させていくだけである。

【0003】 出願人はこの度、自動車の売買の仲介業を推進しているが、このような場合には売買当事者は多数に及び、各自動車の種類、型、走行距離数（新車の場合には 0）は多種類に及び、かつ売買当事者の条件もまた様々であり、この場合には個別に売買の成立を斡旋するのは極めて煩雑である。

【0004】 しかし、このような売買の仲介をコンピュータシステムを使用して効率的に処理できるシステムは存在しなかった。

【0005】

【発明が解決を必要とする課題】 本発明は、多くの売買

当事者及び多種類の商品の売買の仲介を効率よく処理できるシステムを提供することを発明の課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 前記の課題を解決する為、本願発明の構成は、売却申込者に関するデータ及び該売却申込者が売ろうとしている商品に関するデータを記憶する第 1 メモリと、買受申込者に関するデータ及び買受申込者が買おうとしている商品に関するデータを記憶している第 2 メモリとを備え、第 1 メモリの商品に関するデータと第 2 メモリにおける商品に関するデータとを対比し、これが一致するか否かの判別機構を有していることに基づく商品の仲介売買システムからなる。

【0007】

【発明の作用】 図 1（a）は、本願発明のシステムの概略を示す。

【0008】 これによっても明らかなように、本願発明は、売却申込者側のデータ及びその商品に関するデータを記憶した第 1 メモリ 11、及び買受申込者側のデータ及びその商品を記憶した第 2 メモリ 12、及び双方の商品の対比を行なう判別機構 2 から成っている。

【0009】 売却申込者及び買受申込者のデータとしては、名称、住所、電話番号と共に、売買条件（買受申込者の場合には最大限の値段、売却申込者の場合には最小限の値段及び支払方法）などが記憶されている。

【0010】 他方、双方の商品としては、商品の種類、メーカー、型及びその他の要素（例えば自動車の場合には走行距離など）が記憶されており、たとえば図 1

（b）に示すフローチャートのように、第 1 メモリ 11 の 1 番目の特定の商品を基準として、第 2 メモリ 12 の 2 番目の商品に関するデータを順次ピックアップし、各要素について対比し、一致する商品の有無を判別し、次に第 1 メモリ 11 の別の商品を基準として、第 2 メモリ 12 の商品に関するデータを順次ピックアップし、同様に一致する商品の有無を判別し、これを繰り返すことによって、その結果を売却申込者及び買受申込者に連絡することになる。

【0011】 商品が一致するか否かの判別は、商品の種類、メーカー、型などの各要素を数値化し、各要素に対応した数値が一致するか否かによって判別することになる。

【0012】 そして、商品の全ての要素について一致すれば問題はないが、大抵の場合には、売却申込者側の商品と買受申込者側の商品とが僅かな部分において相違する場合がある。

【0013】 従って、商品の一致においても、商品の種類、メーカー、型、その他の要件など順次段階を設け、何れの段階まで一致しているかを図 1（b）に示すフローチャートに従って、順次判別する多段階判別を行なうのが好都合である。

【0014】また、たとえば用品が自動車の場合、これまでの走行距離については、買受申込社側において、たとえば5万キロメートル以下のような一定の範囲による条件を設定し、売却申込者側の自動車商品がその要件に合致すれば良いことになる。

【0015】このように、本願発明では、売却申込者側及び買受申込者側のデーターを記憶して、売却申込者側と買受申込者側の商品が一致するか否かを、コンピュータシステムによって判別する点にその特長を有している。

【0016】

【実施例1】実施例1では、図2に示すように、売却申込者及び買受申込者側の何れか又は双方におけるデータ送受信装置41、42と本願発明のシステムとが、オンラインによって接続され、本願発明のシステムによって商品の一致が得られた場合には、直ちに通信できるシステムを示す。

【0017】これによって、売却申込者又は買受申込者の一方又は双方に対して、自動的に売買契約の成立の可能性がある旨の信号が伝達されることになり、仲介人としては、双方の回答を効率的に促すことが可能となる。

【0018】

【実施例2】一般には、売却申込者及び買受申込者は、商品の売買に関する条件を設定することが多い。

【0019】実施例2では、図3のフローチャートに示すように、商品に関するデータだけでなく、売買条件のデータをも同時に判別する実施例を示す。

【0020】たとえば、買受申込者の売買金額の上限値及び売却申込者の売買金額の下限値とが共通する範囲が存在する場合には、双方の売買条件が合致することになる。

【0021】他方、たとえば分割払いに関する要件については、その支払期間及び支払時期を完全に合致させることは困難である。

【0022】このような場合には、売却申込者及び買受申込者の双方に分割払いの最短期間と最小期間とをそれぞれ提示させ、双方の期間の範囲において共通部分が存在する場合には、売買条件が一致する旨の信号を発生させ、双方の条件が合致するか否かを判別機構2によって判別させると良い。

【0023】即ち、実施例2は、実際の売買条件をも処理する機構を含んでおり、仲介売買を推進するうえで極めて便利である。

【0024】

【実施例3】各業界の分野では、危険な取引業者として、ブラックリストに載せられている業者が存在する場合がある。

【0025】このような場合、本願のシステムでは、こ

の点に関する特別のデータを有していない場合には、ブラックリスト掲載業者と通常の正常な当事者との売買仲介を行なわせることになり、後の問題に発展しかねない。

【0026】このような被害を防止するため、実施例3では、図4(a)のブロック図に示すように、別途ブラックリスト掲載業者に関する第3メモリ13を記憶しておき、図1(b)の如きフローチャートによる操作を行なう前に、図4(b)のフローチャートに示すように、第1メモリ11及び第2メモリ12の売買当事者が、当該ブラックリスト掲載業者と合致するか否かを別の判別機構3によって判別し、合致している場合には、第1メモリ11及び第2メモリ12の合致した当事者を消去し、第1メモリ11及び第2メモリ12からブラックリスト掲載業者がリストアップすることを防止する。

【0027】これによって、ブラックリスト掲載業者との売買取引を自動的に避けることができる。

【0028】

【発明の効果】以上の如き本願発明によって、仲介業者は、売買当事者のデータ及び商品のデータを効率的に処理し、しかも単に商品の各要素に関する条件だけでなく、必要に応じては、売買当事者が有している売買条件の合致をも判別することによって、効率的に商品の仲介業を推進することが可能となる。

【0029】また必要においては、ブラックリスト掲載業者をも記憶することによって、このような危険な取引を事前に避けることも可能である。

【0030】このように、本願発明によって中間業者は、多数の当事者及び多数商品の仲介業を効率的に処理することができるので、本願発明の価値は絶大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)、(b)：本願発明の基本的な構成を示すブロック図及びそのフローチャート

【図2】：実施例1の構成を示すブロック図

【図3】：実施例2の構成を示すフローチャート

【図4】(a)、(b)：実施例3の構成を示すブロック図及びそのフローチャート

【符合の簡単な説明】

11：第1メモリ

12：第2メモリ

13：第3メモリ

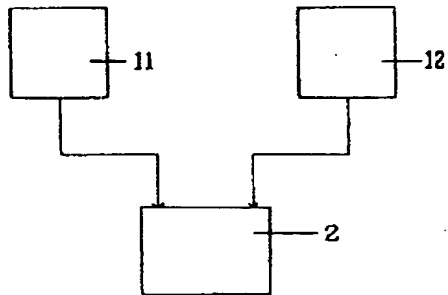
2：商品が一致するか否かを判別する判別機構

3：第1メモリ及び第2メモリに記憶されている売却申込者及び買受申込者が、第3メモリに記憶されているブラックリスト掲載業者と一致するか否かを判別する判別機構

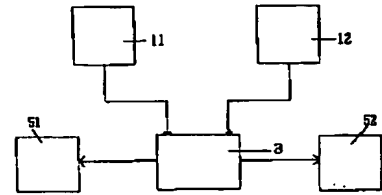
41、42：売却申込者及び買受申込者側の送受信装置

【図 1】

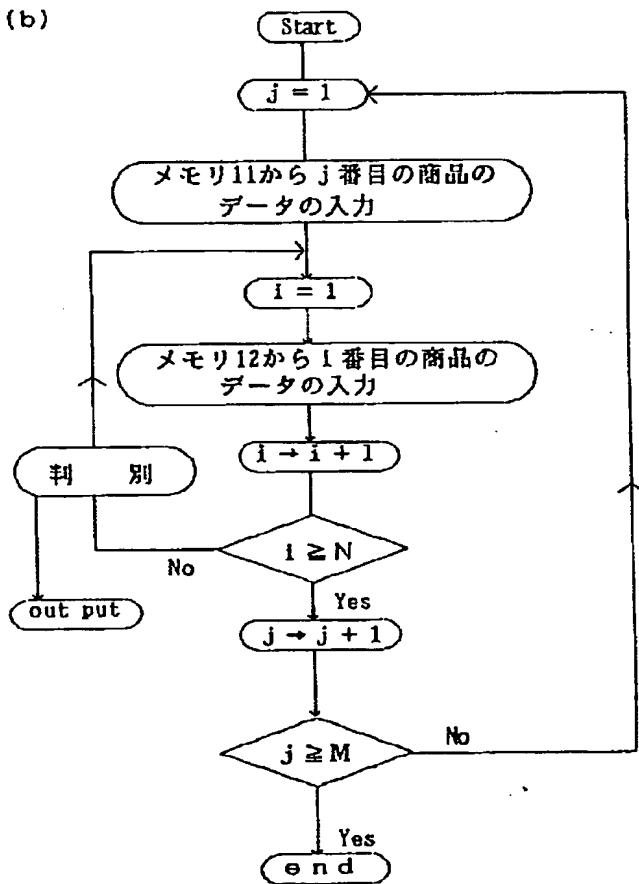
(a)



【図 2】



(b)

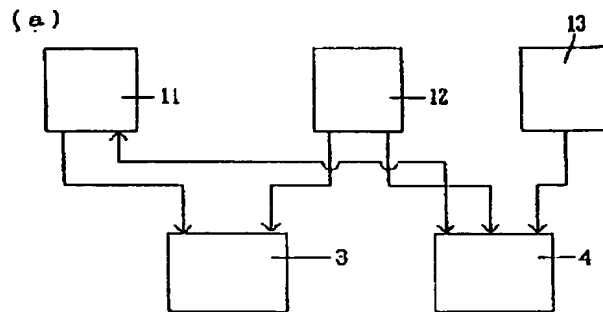


```

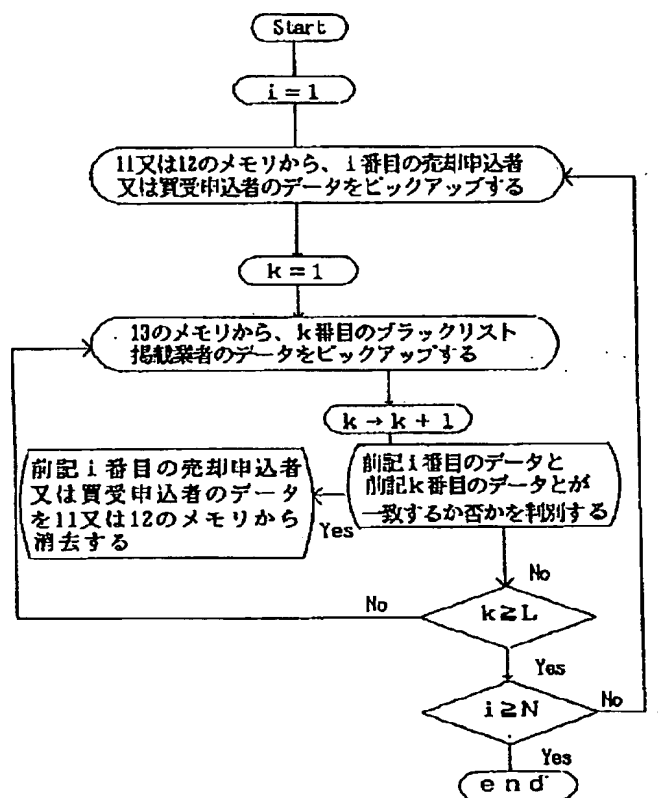
graph TD
    Start([Start]) --> J1([j = 1])
    J1 --> J1Proc([メモリ11からj番目の商品のデータ及び  
売買条件のデータのピックアップ])
    J1Proc --> I1([i = 1])
    I1 --> I1Proc([メモリ12からi番目の商品のデータ及び  
売買条件のデータのピックアップ])
    I1Proc --> Iplus([i → i + 1])
    Iplus --> IgeN{ i ≥ N }
    IgeN -- No --> J1Proc
    IgeN -- Yes --> Jplus([j → j + 1])
    Jplus --> JgeM{ j ≥ M }
    JgeM -- No --> J1Proc
    JgeM -- Yes --> End([end])
    
```

N : i の最大値
M : j の最大値

【図 4】



(b)



N : i の最大値
L : k の最大値